

「できること できないこと」 (細江隆一)

[おすすめしたい本:親孝行実行委員会事務局『親が死ぬまでにしたい55のこと』]

父が逝った。七九歳だった。

病氣一つしたことがない体だっただけに、入院した折りも、「すぐに戻るからな。ちょっと休憩するだけやから」と言って憚らなかった。私たち家族もそう信じ、戻ってくるのを待っていた。

数ヶ月後、父は約束通り戻ってきた。しかし、すでにかつての父では無かった。しばらく自宅で療養していたが、そのまま天国に旅立ってしまった。私たち家族が嘆いたのも当然だった。

昨年、私は『親が死ぬまでにしたい55のこと』を購入していた。数年前にベストセラーになった本である。売れまくった当時、私も購入して読んだのだが、「まだ先のことだから」という理由で、読破後、古本屋に売ってしまっていた。それを再購入したのは、父母の老いを感じていたからだった。

私は一つ一つを実践中だった。例えば「親に会いに行く」。土日は頻繁に会いに出掛け、孫と父母が触れ合う時間を生み出した。「親にありがとうを伝える」もそうだ。事あるごとに「あのときはありがとう」と伝えてきた。特に、父が入院して以降、この言葉は私の口癖になった。父もまた私に「いままでありがとな」と、感謝の気持ちを述べたからだった。

「親と一緒に酒を酌み交わす」もできた。あいにく父は下戸で、飲み交わすとすぐに眠ってしまったが、酌み交わすことに意味があったように思う。

なのに、私は父に55全てを実践することはできなかった。それがいまでも悔やまれてならない。「父はもっと長生きする」と信じていたからこそ、小出しに実践していたからだった。いまは毎日天国の父に「全て実践できなくてごめんな」と両手を合わせている。

親も自分も永遠には生きられない。だからこそ、いまできることを、できるうちにやっておきたい。本書はそんな思いを強くさせる素敵な本である。